

船舶事故調査報告書

平成26年8月7日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

委員 横山 鐵男（部会長）
委員 庄司 邦昭
委員 根本 美奈

事故種類	衝突（橋脚）
発生日時	平成26年2月23日（日） 17時20分ごろ
発生場所	広島県呉市釣士田港北西方沖 釣士田港釣士田防波堤灯台から真方位321° 1,590m付近 （概位 北緯34° 09.3′ 東経132° 29.6′）
事故調査の経過	平成26年2月28日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート しおかぜ、4.8トン HS3-43071（漁船登録番号）、個人所有 11.91m（Lr）×2.77m×0.95m、FRP ディーゼル機関、423.00kW、平成7年7月13日 第291-35556号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長 男性 51歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和56年5月8日 免許証交付日 平成23年9月20日 （平成29年5月7日まで有効）
死傷者等	重傷 1人（船長）
損傷	船首部が破損
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者2人を乗せ、愛媛県松山市二神島 <small>ふたがみ</small> でのレジャーを終えて帰るため、平成26年2月23日16時30分ごろ同島を出発し、船長は、操舵室の椅子に座って手動操舵で航行した。 船長は、広島県江田島市能美島とその東方の呉市倉橋島との間に架かる早瀬大橋南方120m付近を同橋中央部付近を通過するため、約19ノット（kn）の対地速力で北進中、急にうとうとし始めたところ、本船が、17時20分ごろ早瀬大橋の橋脚に衝突した。 船長は、操舵室で倒れているところを同乗者に発見され、同乗者から連絡を受けた僚船に最寄りの漁港まで運ばれた。 船長は、救急車で病院に搬送され、頭部裂傷、顔面裂傷等と診断された。

	本船は、巡視艇にマリーナへえい航された。
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東南東、風力 2、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の中央期、潮流 南南東流約2.0kn
その他の事項	<p>船長は、本事故前日、遊漁船の船長として職務に従事しており、本事故当日、06時00分ごろ広島港を出発し、途中、釣りをしながら、12時ごろ二神島に着き、レジャーをしたので、少し疲れを感じていた。</p> <p>同乗者2人は、本事故時、客室で仮眠をとっていた。</p> <p>船長は、搬送された病院で意識が戻った。</p> <p>船長は、本事故発生場所付近の航行経験は豊富であり、ふだん、早瀬大橋を通過するときは同橋の中央部を通過していた。</p> <p>船長は、GPSプロッターを使用していた。</p> <p>本船は、舵中央でも船首が右方に向く傾向があった。</p> <p>船長及び同乗者は、全員が救命胴衣を着用していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり あり あり 本船は、釣士田港北西方の早瀬大橋南方沖において、同橋中央部付近に向けて手動操舵で北進中、操船中の船長が眠気を催し始めたことから、右回頭し、早瀬大橋の橋脚に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、釣士田港北西方の早瀬大橋南方沖において、同橋中央部付近に向けて手動操舵で北進中、操船中の船長が眠気を催し始めたため、右回頭し、早瀬大橋の橋脚に衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none"> ・疲れを感じた時には、適宜休憩し、疲れが取れてから出航すること。